

平成18年 第9回  
教育委員会定例会会議録

平成18年9月12日(火)

港区教育委員会

# 港区教育委員会会議録

第 2 2 2 4 号

平成 1 8 年第 9 回定例会

日 時 平成 1 8 年 9 月 1 2 日 ( 火 ) 午前 1 0 時 4 分 開会

場 所 教育委員会室

「出席委員」	委 員 長	五味原 康
	委 員	横 矢 真 理
	委 員	小 島 洋 祐
	教 育 長	高 橋 良 祐

「欠席委員」	委 員	澤 孝一郎
--------	-----	-------

「説明のため出席した事務局職員」	次 長	川 畑 青 史
	参事 ( 庶務課長事務取扱 )	小 池 眞喜夫
	教育政策担当課長	堀 二三雄
	学 務 課 長	安 部 典 子
	生涯学習推進課長	佐 藤 國 治
	図書・文化財課長	宮 内 光 雄
	指 導 室 長	藤 井 千恵子

「書 記」	庶務課庶務係長	阿 部 祥 子
	庶務課庶務係主事	荒 川 正 行

「議題等」

第 1 会議録の承認 平成 1 8 年第 4 回定例会 ( 平成 1 8 年 4 月 1 1 日 ) 会議録

第 2 請願・陳情

( 1 ) 私立幼稚園保護者の教育費負担軽減に関する請願について

( 2 ) 白金台 3 丁目遊び場に関する陳情について

第 3 教育長報告事項

- 1 平成 1 9 年 4 月入学の学校選択希望制について
- 2 港南小学校の児童数増にかかる対応について
- 3 箱根ニコニコ高原学園ガスヒートポンプ入替え工事に伴う利用休止について
- 4 港区立芝公園多目的運動場の開設について
- 5 港区立郷土資料館の臨時休館について
- 6 生涯学習推進課 8 月事業実績と 9 月の事業予定について

7 図書館・郷土資料館の8月事業実績と9月事業予定について

8 指導室9月行事予定について

#### 第4 協議事項

1 港区における生涯教育の施策の方向づけについて

(1) 学校教育の環境整備について

港区立小中学生海外派遣について

(2) 社会教育の施策について

「開 会」

五味原委員長 座ったままで失礼いたします。

かなり涼しくなりましたが、お天気もなかなかすぐれません。頑張りましょう。

ただいまより、平成１８年第９回港区教育委員会定例会を開催させていただきます。

本日は、澤委員が欠席でございます。

(午前１０時４分)

「会議録署名委員」

五味原委員長 本日の署名委員は、小島委員、よろしくお願いいたします。

小島委員 はい、わかりました。

## 第１ 会議録の承認

平成１８年第４回定例会（平成１８年４月１１日）会議録

五味原委員長 早速日程に入ります。

日程第１、会議録の承認について。

平成１８年４月１１日開催の第４回定例会（第２２１６号）について、承認ということによろしくございましょうか。

(異議なし)

五味原委員長 それでは承認されました。

## 第２ 請願・陳情

(１) 私立幼稚園保護者の教育費負担軽減に関する請願について

五味原委員長 日程第２、請願・陳情について。

平成１８年８月８日付で陳情が１件、平成１８年９月１１日付で請願が１件提出されております。

本日は平成１８年９月１１日付で受理した請願、本日の資料１です、その請願について、趣旨説明の希望がございますので、お伺いしたいと思います。

趣旨説明を受ける前に、参事から報告をお願いします。

参事(庶務課長事務取扱) 平成１８年９月１１日付で、港区私立幼稚園ＰＴＡ連合会代表者 会長 後藤理奈子さんほかから、「私立幼稚園保護者の教育費負担軽減に関する請願」が提出されました。

書記に請願文を朗読させますので、よろしくお願いいたします。

書記 私立幼稚園保護者の教育費負担軽減に関する請願

趣旨 私立幼稚園保護者の教育費負担を軽減し、公私立幼稚園格差是正のためにも、平成１９年度の助成金の支給、並びに増額をお願い致します。

理由

一．港区においては、平成１８年４月より保護者補助金を増額していただき、誠にありがとうございました。昭和４９年１２月に港区議会総務常任委員会で議決されました「格差約２分の１までの助成」、並びに同５１年８月の公私立幼稚園調整審議会の答申「５０％以上の助成」へ向けて前進致しましたこと大変喜ばしく存じます。しかしながら、平成１８年度の区内私立幼稚園保護者の教育費平均負担額は月額４０,１１６円で、公立幼稚園保護者負担額との格差は依然月３４,３０２円となっております。ぜひとも、私立幼稚園保護者への重き負担を御理解いただき、全保護者に対し、２分の１以上の格差是正に向け、ご尽力賜りますよう切望いたします。

二．現在、公立幼稚園においては保護者の所得制限はなく、全保護者を対象に一律の公費が支出されております。それに対し、私立幼稚園においては区内在住の約４２％もの保護者が所得制限を受けており、平成１７年度の補助金額も最大で年５４,０００円の格差が生じております。さらには東京都からの所得制限も厳しくなり、区内在住の殆どの保護者が都の所得制限を受け、区からの助成金に頼らざるを得ない状況となっており、この傾向は今後も増大すると思われます。是非とも、港区においては所得による制限を撤廃し、私立幼稚園全保護者への一律の助成をご検討いただくよう、格段の御理解をお願い申し上げます。

三．平成１８年４月現在、港区私立幼稚園総園児数のうち、区外からの通園児は約３６％を占めております。区外からの通園児が多いことは、港区内の私立幼稚園が高い評価を受けている証であります。また、港区在住幼稚園児の私立・公立幼稚園児の比率は約２対１となっており、港区の幼児教育における私立幼稚園の必要性、重要性は明かです。

保育料の額にとらわれるのではなく、各幼稚園それぞれの特色ある保育内容や子供の個性に合わせて幼稚園を選択できることが私達の願いでございます

次世代を担う子供達が健やかに成長するためにも、港区の更なる教育行政の充実と保護者への助成の充実をお願い申し上げます。

五味原委員長　ありがとうございました。

それでは、請願者を代表して、後藤理奈子さんから趣旨説明をお受けしたいと思いますので、よろしく願いいたします。請願者の方、どうぞ。

請願者　おはようございます。

港区私立幼稚園ＰＴＡ連合会会長の後藤理奈子でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

港区におかれましては、私立幼稚園保護者の教育費の助成につきまして、日ごろよりご尽力くださいまして、私立幼稚園保護者を代表いたしまして、深く感謝を申し上げます。

ただいま読み上げていただきました、私どもの請願文の補足説明をさせていただきます。

まず請願文ですが、文頭に「平成１８年４月より保護者補助金を増額をしていただき」という文章がございますが、９月現在、いまだ検討中ということになっておりますので、現在は平成１７年

度の金額を継続という形になっております。この件に合わせても、なるべくお早めのご提示をしていただけますと幸いです。

資料3のとおり、平成18年度私立幼稚園と公立幼稚園の月平均保育料の格差は34,302円となっております。こちらは港区私立幼稚園14園のデータより算出いたしました。

平均保育料の算出方法は資料2をご覧くださいませ。16年度より教育委員会の方とご相談の上、かかる費用の全てを14園で割る方法で算出しております。

また、ただいま教育委員会と港区私立幼稚園連合会の間で、今後は一番高額な園、低額な園を除いて算出する。また計算すべき項目を見直すなど、双方が納得できる方向で話し合いを進めておりますので、来年には新方式での算出が可能かと思われます。

保育料につきましては、現在6項目に分けておりまして、考査・入園料、保育料、施設費、教材費、暖房費、PTA会費などとなっております。これはあくまでも全園において共通項目をおおまかに計算対象としておりますが、各園において、寄付金、制服代など、これらの項目以外にも負担が生じているのも事実でございます。

資料5は、東京都23区の補助金の一覧表でございます。現在、納税額にかかわらず、一律の補助をしているのが常識となっております。港区においては、比較的納税額の高い世帯が多く、所得制限による都からの補助金が給付されない世帯が園児全体の半数以上の65%となっており、さらには人数最多である42%の世帯が区からの助成も給付されず、区からの助成に頼らざるを得ない状況となっております。

東京都に関しては、港区私立幼稚園PTA連合会が所属しております東京都私立幼稚園PTA連合会という組織において、私立幼稚園の補助金・予算についての要望を各地区で取りまとめ、理事長にかけ、承認された段階で東京都知事あてに要望書を出しております。

また、保護者の負担が最も多い入園時に補助金のない区というのも23区中、千代田区、中央区、港区の3区のみとなっております。

このような状況を踏まえ、ぜひ2分の1以上の格差是正とともに、港区におきましては所得による制限を撤廃し、全保護者への一律の助成をご検討いただけますよう、お願い申し上げます。

また、近年では臨海副都心を初めとしたまちの開発により、子どものいるご家庭を含む人口もふえる傾向にございます。本年度も昨年を1,000人以上上回る1万1,530名の方々のご署名をいただきました。これも皆様の幼児教育の関心の高さをあらわしているのではないかと思います。

国を挙げて少子化対策、子育て支援に取り組む今だからこそ、未来を担う子どもたちの人間形成となる大切な幼児期を過ごす場所を、保育料だけではなく、それぞれの特色ある保育内容や、子ども自身の適正に合った幼稚園を公私立にかかわらず自由に選択できるよう、この行政の力強いご支援を賜りたく、ぜひとも平成19年度保護者補助金の増額をしていただけますよう、私立幼稚園保護者を代表いたしましてお願いする次第でございます。

何とぞよろしくお願いいたします。

五味原委員長 ありがとうございます。説明は終わりました。

趣旨説明者に内容確認等の質問がございましたらどうぞ。

横矢委員 お気持ちはすごくよく伝わりますけれども、所得制限にかかる42%の方が年収に換算すると、どの程度の年収の方になるのですか。ちょっとその想像がつかなくて。

請願者 1,200万円。

横矢委員 1,200万円ですか。

横矢委員 事務局に伺いたいんですが、1,200万円という金額は一般的に見てどうなのか。わかりやすく。

次長 年収でいうと1,200万円は、例えば区の職員等で比較しますと、例えばですけども、私ぐらいでしょうかね。58歳で勤続35年になりますけれども、私で1,200万円台になります。

五味原委員長 そういうことは上席の部長ということですね。

横矢委員 そういう方がそれだけ多いということですかね。

小島委員 保護者の42%が1,200万円以上の収入ですか。すごいですね。

五味原委員長 もう一つ。港区全体の平均所得というのは、もちろん東京都内で一番高いと思うのですが、どのぐらいですか。

次長 職員のですか。

五味原委員長 いやいや、区民のです。何かありますか。

小島委員 この間、筈小学校の保護者の収入が日本一高いと出ていましたね。港区の小学校五つぐらいが上位10校に入っていると。

教育長 週刊誌に。

小島委員 ええ、週刊誌にですが。

五味原委員長 資料なければよろしいです。

ほかにございますでしょうか。

小島委員 今この請願の内容を拝見させていただいて、非常にわかりやすいですし、港区の教育行政についてよく考えられておられるなと感じました。

また、私立幼稚園と公立幼稚園を対等というか、公平・平等に扱ってほしいという趣旨もよくわかります。

そして、請願の理由でも述べられていますように、保護者の方が自分の子を行かせたい幼稚園を選択できるように、それが大事なことのだと、その必要性、重要性は明らかなですと書いてありますが、これはそのとおりだと思います。

私は、日本の教育における公私立のそれぞれの役割、また私立の重要性というのはよく承知しているつもりでありますので、私立幼稚園がますます発展するよう、また、公私立が共に繁栄することが大事と思っています。

そういう意味で、私立幼稚園の保護者の方に対する区の助成というのは、都の補助が減っている分必要であろうと理解しています。

ただ、皆様方にご理解いただきたいのは、例えば公立幼稚園で3年保育をやりたい。区民の方、

それから保護者の方から圧倒的な要望が出ておりまして、教育委員会としてはその区民の皆様、保護者の皆様のそういう強い要望を何とか実現したい。それを実現するのが教育委員会としての行政の責務ではないかと考えているわけです。

そうした場合に、例えばお台場地区で3年保育をやりたいとか、あるいはその他のところで3年保育をやりたい。私立の経営を圧迫しないように、平成20年度までに、今、中之町幼稚園でやっておりますが、もう2園程度やらせていただきたい。やるとしても1幼稚園で3年保育は定員として20名、実際の募集は15名程度、全体の募集は、30名程度にすぎないのです。

それで今、公立で3年保育をやっていたいただければ、3年保育に入りたい。しかし、やっていないので、3年の保育をあきらめざるを得ない。まさしく保護者が願う、幼稚園に入りたいというのを実現したいわけです。それができなくて、いわゆる3歳児で待機しているご家庭がかなりの数あるのですね。

そういうことを考えると、今言ったように平成20年までに2幼稚園で3年保育をやりたい、しかも1クラス募集は15名程度だという点において、私立幼稚園の経営を圧迫するということはちょっと考えられないのではないかというふうに理解しているのです。

それにもかかわらず、私立幼稚園側は絶対ノーと言って、話し合いのテーブルにほとんど乗ってきていないのが現状です。

だから、私立幼稚園の保護者の方もこの点を十分理解していただきたいと。なぜ私がこういうことを言うかということ、やはり私立幼稚園と公立幼稚園がざっくばらんに、忌憚のない意見を出し合って、理解を深めていかないと、お互いに何となく反発し合って、良い結果が得られないと恐れるからです。

請願の理由で、「次世代を担う子供達が健やかに成長するためにも、港区の更なる教育行政の充実」、この港区のさらなる教育行政の充実のためには、今言った3年保育を受けたくても受けられないということがないよう、やっていかななくてはならないと理解しています。

そこら辺の現状を皆様方にもよく理解していただいた上でいろいろなお話し合いをしていきたいなと思います。基本的には、先ほど言いましたように、公立と私立が対等、平等で、共存共栄をすることです。私立幼稚園の港区における役割の重要性というのは、これは十分に理解しているつもりです。

請願の主旨はよくわかりました。

五味原委員長 ほかにはいかがでしょうか。

事務局、この2分の1の格差是正という問題点に関しましては、事務局ではどのようなになっていますか。

参事（庶務課長事務取扱） 先ほど、請願代表者の方の趣旨説明でもありましたけれども、私どもの公私格差の算定基準というのは考え方にちょっと相違がございまして、これについては今私立幼稚園連合会と同じテーブルに立った上で、算定基準を一緒にした上で議論しないと前に進まないと思っておりますので、これは今協議をしておりますので修正する予定でございます。

五味原委員長 ではまだ進行中ですね。わかりました。



本年度の中之町幼稚園の3年保育の応募者は何名ありましたか。

学務課長 手元に資料がございません。

五味原委員長 そこにない。では結構です。

次長 確か定員の倍ぐらいでした。

五味原委員長 倍でしたよね。今のところ中之町幼稚園が3年保育ですね。今までは応募者が多い程度だったのですが、今年を見ていると、約倍の応募者があって半分の方々が抽せんて私立に行かれるか、どこか行かれるという状況なのですね。それは港区内の幼児人口の増加傾向というのを顕著にあらわしていると思うのですよね、現実として。この辺をぜひ皆さん方にご理解いただく必要があると思います。

特に私は、前回のときもそうだったのですが、この算定方式に関しては、港区内には東洋英和でございませうとか、進学を目的として他区からたくさんのお子さんがいらっしゃるという。それから東洋英和もそうですけれども、男女の入学条件の格差、この辺は十分考えていただかないと、公立幼稚園と私立の中に一緒にして全部こうだと言われるのは非常に不公平感があると思うので、ぜひその2分の1是正に関してお互い理解していただいて決めていただきたいと思います。

教育長 これは毎年ご請願をいただいております、これは来年度、平成19年度の助成金の支給並びに増額というこういう請願になっております。そして3点いろいろ挙げられており、まさにいろいろなお話があったわけです。

私ども、公立であろうが私立であろうが、港区の子どもたちの幼児教育を担っているという重要性においては何ら変わらないと思います。したがって、子どもたちのための教育をしっかりと進捗していくという意味から、私立側、私立幼稚園もしっかり教育をやっていただきたいし、もちろん公立幼稚園もしっかりやると。そのために保護者と地域、そして我々行政がしっかりと手を結んで、力強い幼稚園教育を振興していくのだと、こういう気持ちはいささかも変化ありませんし、今後もそうしたいと思います。

そういう中で、2番目のところに冒頭、公立幼稚園においては保護者の所得制限はなく、全保護者を対象に一律に公費が支給されているという表現と、その後これに対して、私立幼稚園においては所得制限を受けているのだよと、こういうのですけれども。公立幼稚園にはそういった所得制限と言われるような補助金というのはありませんので、これはあくまでも運営経費ということの意味合いだろうと思うのですね。

そうするとこの幼稚園だけではなくて、これは例えば保育園であろうとも、それからあるいは、そうですね、老人医療の問題ですね、さまざま、小学校や中学校もそうかもしれませんし、そういう運営経費は、それは区立でやるものですからそれは当然区がやる、保護者からお金をいただかないということなわけで、これとこれを同時に表現する、あるいは論じるというのはちょっと無理があるだろうなと思います。

ですから補助金と運営経費、これは性格が違うので、この文章を読むと、全保護者に一律補助金が支給されているのだ、支出されているというそういう意味合いはちょっと違うのかなというふうに思います。

ただし公私格差というものは当然あるということで、それについての助成というのは今後もやはり検討していくべき課題であると思っております。

それから今小島委員がお話になったことで、私もすごくこれは心強いなと思ったわけですが、最後に「港区の更なる教育行政の充実と保護者への助成の充実」とこういうふうに２点書かれていて、私も全く同様だと思しますので、ぜひ皆さんにも港区のさらなる教育行政の充実という意味は今切望している公立幼稚園の３年保育、これを実施すること、拡大していくことということがぜひ求められておりますので、私立幼稚園の保護者の皆さんにもぜひご理解をいただいて応援をしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

小島委員 請願の理由３番目で、区外からの通園児が約３６％を占めております、これは港区内の私立幼稚園が高い評価を受けているあかしですと、これはまさしくそのとおりだと思います。やはり港区の私立幼稚園が非常に高い評価を受けているということは間違いないので、皆様方、保護者の方がますます自分のところの幼稚園を応援して、さらに充実、発展されるよう願っています。

そして、それに引きずられるというか、公立幼稚園も一緒になって教育の内容を充実させて、お互いが切磋琢磨しながら、お互い助け合い、できたら私立幼稚園の保護者と公立幼稚園の保護者が交流し、お互い提携して、港区の子どもたちがさらに充実した教育を受けられる、互いに手を携えていけるようと考えていますので、よろしくお願いいたします。

五味原委員長 ほかにございませんでしょうか。

横矢委員 資料５ですけれども、東京都の各区別の補助金交付状況という資料を見せていただいています。各区によって、私立と公立の関係がどうなっているのか読みとれません。あるいはもう公立は廃止している区というのもあるわけですね。これが一律にこの区はこれだからすばらしいというのではなくて、裏側にどういうことが隠れているのかということまで、私たちも勉強をもうちょっとしないといけないなと思います。そして、できるだけいい部分を港区に取り入れて、より良い幼稚園をつくりたいということで私たちも力を入れてみたいと思いますので、ご協力お願いいたします。

五味原委員長 ほかにございますでしょうか。

よろしゅうございますか。

それでは請願者の方、ありがとうございました。

請願者 ありがとうございました。

五味原委員長 この件につきましては、事務局でも関係者と十分な協議、検討をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

ご苦労さまでした。

## （２）白金台３丁目遊び場に関する陳情について

五味原委員長 それでは続きまして、本日の資料ナンバー２、平成１８年８月８日付で提出された陳情について、参事から報告をお願いします。

参事（庶務課長事務取扱） 平成１８年８月８日付で「白金台３丁目遊び場に関する陳情」が提

出されました。書記に陳情文を朗読させますので、よろしくお願いいたします。

書記 白金台3丁目遊び場に関する陳情

（趣旨）港区区立白金台幼稚園の全面改築における仮設園舎を白金台3丁目遊び場（球技場）に建設することのないようお願い致します。

（陳情の理由）

当該地はこの辺りでは唯一球技が出来る場として、連日いろいろな人が利用しています。

平日、午前中にはお年寄りによるベタング、近隣保育園児の遊び場として午後には、小学生や未就学児がおもいきりボール遊びをしています。

また週末には、終日親子で野球やサッカーを楽しむ姿が見られます。

その大切な場所を取り上げないでください。

当該地は芝白金住宅の出入り口であり、その隣には住民の駐車場があります。仮設園舎として利用された場合、登下園児のみならず保育中の現・白金台幼稚園内の園庭との行き来等、園児への安全が懸念されます。

以上です。

五味原委員長 ありがとうございます。

参事（庶務課長事務取扱） それでは、この白金台幼稚園の仮設校舎の場所に関する陳情が出たわけですが、それについて若干、関連事項について補足したいと思います。

お手元に住宅地図があるかと思います。黄色いところが現在の区立白金台幼稚園でございます。この陳情でおっしゃっている遊び場というのはこのピンクで囲んだところでございます。ここは当初仮園舎の場所ということで予定しておりました。

こうした陳情あるいはその他いろいろ、区長へのはがきであるとかメールであるとかいろいろいただきまして、ここについてはなかなかご理解をいただくことが難しいのかなということで、ほかにもどうかということで探してまいりました。

駐車場を挟んで、白金台3丁目遊び場というのは二つありまして、駐車場を挟んで、ちょうど幼稚園の向かい側に、紫で囲んだところですが、ここに遊び場があります。ここは若干ピンクのところの遊び場と比べると狭いということもあるのですが、樹木が結構ありまして、樹木を伐採してということはなかなか難しいということで、当初ここは難しいのではないかなと考えておったわけですが、さらに検討をして、多少ピンクのところでの園舎の規模よりは小さくなるというようなことになりますけれども、そこで園舎をつくるということで大丈夫だということで、学校施設建設等担当とも十分相談した上、ここでできるだろうというようなことで、ここでいくということでご説明を近隣の方にもして一定のご理解を得たところでございます。

それに関連して、なお仮園舎の関係が一定めどがつきましたので、本体の設計についてもこれから詰めていこうということで、もう1枚の資料で白金台幼稚園改築検討会設置要領というものをお配りいたしましたけれども、これは本体の方の改築の関係について、今基本設計をやっている段階

でございますけれども、PTAの方、それから地元近隣の方等関係者にご意見をいろいろ伺って設計をしようということで、こういう検討会をつくりまして、先ごろ第1回目を行ったわけです。こちらについては教育委員会事務局次長を委員長ということで、その、右側の別表3の第3条関係というところがメンバーでございますけれども、こういうメンバーで設計についていろいろと詰めて、良い幼稚園をつくっていきなということで動いているところでございます。

簡単ですが、以上でございます。

五味原委員長 ただいまのご説明については何か特別ございますか。

一件だけちょっと伺いたいのですけれども、この駐車場を挟んだウナギの寝床の長い土地ですね、これは公団の土地ですか。

参事(庶務課長事務取扱) これについては公団、現在はURですか、都市機構が所有していて、現在遊び場ということで無償で港区の方にお借りをしていると、貸していただいているという土地です。現在は遊び場ですので、土木の方で管理をしているというものでございます。

五味原委員長 そうしますと、ここに仮園舎を建てるとするならば、一応承諾がいるわけですね。これはもう終わっているのですか。

参事(庶務課長事務取扱) 公団の方にはお話をさせていただきまして、園舎という形で使用するということについては了解をいただいております。

五味原委員長 わかりました。それではこの件につきましては、事務局でも関係者と十分な協議、検討をお願いいたしまして、次に移らせていただきます。

### 第3 教育長報告事項

#### 1 平成19年4月入学の学校選択希望制について

五味原委員長 日程第3、教育長報告事項。

平成19年4月入学の学校選択希望制について、学務課長お願いします。

学務課長 資料3をご覧くださいと思います。

「平成19年4月入学の学校選択希望制について」という資料でございます。

来年度の入学に向けまして、学校選択制を行っていくわけですが、昨年度同様に行っていきたいということになっております。

1番としまして、各学校の受け入れ上限数ですが、小学校の場合は3学級の受け入れ上限数を100名、2学級の学校であれば70名、中学校は3学級を110名、2学級は70名ということにしております。

各学校の学級数の設定につきましては、今後調整していきたいと考えております。

2番目の抽せんの実施でございますが、選択希望票の受付期間が終了し応募状況が確定した後に、入学希望者数が受け入れ上限数を超えた学校の中から抽せん学校を決定していきたいと思います。

受け入れ上限数を超えた場合に、直ちに抽せんを実施するのではなく、私立学校への入学や転出等を考慮し、受け入れの可能性を十分に検討した上で抽せん校を決定いたします。

抽せん対象者は、通学区域外からの入学希望者ということになります。ただし、小学校において

は兄・姉が在籍する隣接校に弟・妹が入学を希望する場合、一定の条件を満たす場合に抽せん順位を優先するというふうに考えております。その条件につきましては　ということで掲げております。

3 番目に、今後のスケジュールでございますが、学校案内を 9 月 21 日に発送いたします。学校選択希望表の発送は 10 月 13 日、学校選択希望票提出締切は 11 月 10 日、応募状況の公表は 11 月 21 日、抽せんの実施は 12 月 6 日、就学通知書の発送は 1 月の上旬を予定しております。

以上でございます。

五味原委員長　ただいまの説明につきまして、何かございますでしょうか。

小島委員　小学校と中学校の調整のところが 0.9 と 0.95 と違うのですが、これはどんな点からでしょうか。

学務課長　この数字につきましては、学校の選択を希望された、学校希望選択制が行われた後に区域外からの転入者等を備えて、一定の数をよけておくといえますか、取っておくという趣旨で設けたものでございます。小学校が 0.9、中学校が 0.95 となっておりますのは、中学校の場合は私立への入学の状況ですとか、3 年間ということですので、転入してきても、もとの学校へ通うということも多うございますので、そういったものを考慮し、小学校と差をつけたものでございます。

小島委員　はい、わかりました。

五味原委員長　ほかにございせんか。よろしゅうございますか。

横矢委員　今後のスケジュールですが、応募状況の公表というのがありますけれども、去年はその公表を 1 回見て、少し訂正というか修正というか、変更を受けつけるような形にはいかがかという話をして、そのような部分も少し入ったように思ったのですけれども、ことはそういったことは考えていらっしやらないのですか。

学務課長　去年は確かに中間公表というのをしておりました。去年は中間公表をして、その後応募の最終締め切りということで迎えたのですが、その応募、中間公表したことによりまして、一定の小学校の方から逆に応募者が減ってしまったというふうなことがあるというご意見もございまして、現在はちょっと、その点は検討中でございます。

今後、最終的にスケジュールを確定していく中で、そういった点は整理して決めていきたいと思っております。

横矢委員　少数人数だったところがこれだけ少ないとちょっとというふうな気持ちを持たれたという形になるわけですね。

あと済みません、兄弟が在籍している場合は抽せん順位を優先ということですが、これはどのような形で優先となるのでしょうか。

学務課長　基本的に兄弟の方を先に入れていくという形になります。

横矢委員　その兄弟枠抽せんというのが先にあって、その後で普通の抽せんということ。そうなのですか。では兄弟であればほぼ入れるという形にはなるわけですか。

学務課長　在籍児に兄や姉がいる場合は、抽せんのときに優先的に取扱っています。

横矢委員 わかりました。

五味原委員長 ほかによろしゅうございましょうか。

教育長 昨年从这个上限数というのを取り入れたわけですがけれども、それに対する区民からの要望あるいは議会からの要望もいろいろあったかと思ひます。

それに関して、今後、学校ごとに受け入れ上限数をきちんと示すようになると思うのですが、その示し方をていねいにやってほしいということですね。ただ一覽に出しましたよ、あるいは広報に載せましたよということだけではなくて、やはりある特定のところに集中をしていくという予想があるわけなので、また昨年で言う赤羽小学校の問題が出ていたわけで、そういった意味ではその未就園児の、未就学の保護者にきちんとていねいに説明するような、そういった手立てもしっかりと講じてもらいたいと思ひます。

五味原委員長 ほかにございせんか。よろしゅうございせんか。

## 2 港南小学校の児童数増にかかる対応について

五味原委員長 それでは次に移らせていただきます。

港南小学校の児童数増にかかる対応について、学務課長お願いします。

学務課長 資料ナンバー4をご覧くださいと思ひます。

港南小学校児童数増にかかる対応についてということでございます。

港南地区におきましては、現在多くのマンションが建っておりまして、今後それが入居を予定しているという状況でございます。

そうした中で学齢人口の増加が予想されております。現在の港南小学校の校舎では、学級増への対応が困難なため、新たな校舎を建設する計画を進めていますが、新校舎の竣工が平成21年度末を予定しておりますので、それまでの暫定期間という形、暫定措置という形で対応してまいりたいということでございます。

今後、3年間の学級の想定でございますが、現在、平成18年度は12学級でございます。これが毎年度少しずつ増加していきまして、平成21年度には16から18学級、現在より5、6学級程度ふえるのではないかとこのように想定しております。

それに対する教室の確保でございますが、子どもたち、児童の学習環境を整備するという観点から、小学校の機能の一部をプレハブの仮設校舎に移設し、移設後のスペースを普通教室として改修したいと思っております。

また、港南中学校の余裕施設を活用し、2階部分の教室をお借りし、その部分を小学校の普通教室として活用していきたいということを考えております。

また、せっかく中学校をお借りするということもありますので、今後教育面における小中の連携についても考えていきたいと考えております。

仮設校舎の概要でございますが、現在の職員室、管理諸室を改修し、多目的に活用が可能な教室としていきたいと考えておりますので、仮校舎には管理機能を移設したいと思ひます。

今日、図面をお配りしておりますので、そちらの方とあわせて見ていただきたいのですが。

1枚目、A4の紙で置いてありますが、この運動場の下あたりが小学校の1階になっているのですが、網かけで校長室と職員室と保健室に色を塗っております。この部分をプレハブの校舎に出していきたいと考えております。

そのプレハブの校舎を設置する場所ですが、2枚目の大きな紙になります。これは上側が中学校で下側が小学校、A B C D棟と書いてあるのが小学校なのですが、計画建物と真ん中に斜線がふつてあります。要するに中学校と小学校の境目部分ですね。そこに平屋のプレハブの校舎を建てるということでございます。

なぜこの場所にしたかと申しますと、管理諸室、職員室、保健室、校長室もそうですが、学校側の全管理、児童の安全管理をしないといけないという役割もございまして、校庭が見える場所に設置したいということです。

また、中学校に行く学年もございまして、小学校と中学校の中間部分で両方の建物が見えるような形で設置をしてはどうかということでこの場所を考えております。

設置期間といたしましては、平成19年3月から平成22年3月ということで考えております。

簡単にもう一度ご説明いたしますと、1枚目の港南小学校の部分を見ていただきたいのですが、今、校長室、職員室、保健室、この三つをプレハブに出した後、この部分を普通教室としてまず改修したいと思っております。

改修につきましては、年度末に一部改修、部分的な改修をし、平成19年度の夏休みに本格改修をしたいと思っております。

中学側からお借りして活用する部分は3枚目の下部になります。これは中学校の見取り図でございまして、2階部分を今想定しております。右下にちょっと黒く塗ってあるところがあるかと思いますが、このフロアですね。4教室ございまして、必要となる教室とそのフロアにその学年の担任等が常駐できるようなスタッフルーム的なものをお借りし、ここの学年でこのフロアで授業をし、給食を食べ、日常的な生活をするということを考えております。

資料4に戻っていただきまして、4の部分に給食の対応ということが書いてあります。

現在の港南小学校の建物は、構造的にこれ以上は給食施設の部分を拡張できないという事情がございまして。そのため、港南中学校の部分の教室を利用する学年につきましては給食は、中学校の給食室でつくり、提供していきたいと考えております。

最後に、今後の予定でございまして、平成18年9月14日から開催される区議会にプレハブ校舎の賃貸借にかかる補正予算を提出することにしております。その可決後、11月から翌年2月まではプレハブ校舎の建設・設置に取りかかります。3月に管理機能の仮校舎への移転を行い、現在の1階部分の管理諸室部分を一部改修します。4月からは中学校の施設の利用を開始し、7月には現在の管理諸室部分を本格改修し、教室としてきちんと整備していくというふうに考えております。

以上でございます。

五味原委員長 ありがとうございます。何かご質問等ございますでしょうか。

先日、この補正予算については皆さんにご承認いただいて、教育委員会としては決定したということになってございます。よろしゅうございましょうか。

横矢委員 校長室、職員室が玄関に入ってすぐのところにありますね。ここを変えられるときに、ここは後に何学年のどういう形の子たちが入るのかとか、そういうところまではまだ決まっていないのですか。

学務課長 まず学級編成を見てみないと最終的にクラス数が確定できないので、今の段階で明確には申し上げられないのですが。あとは学校長の運営の方法もありますので、その点を配慮しながらとは思いますが、通常1階部分というのは低学年が入ることが多いようでございます。

横矢委員 それで考えると、玄関から入ってすぐのところですので、今まで先生方の目があった部分に直接もう子どもがいてしまうということは、安全面で考えると問題点が多くなるということも考えておいていただきたいと思います。

それで新しいプレハブの校長室等におきましても、校庭が見えるようにという発想はあると思いますが、同じように玄関というところが見えるようにということにも考慮していただきたいということを申し伝えただけたらと思います。

教育長 今の横矢委員のご指摘はそのとおりでございます、玄関、正門から入ってすぐ。ちょうど正門ですから、ここに警備員が常駐している形になりますので、なお1年生が入ってくるということになったときには、なおいっそうその警備員にもこの出入りのチェック。それから主事室もすぐそばにありますので、ここでのチェックというものをあわせてやはりきちんとしていくということが大事だろうと思います。

横矢委員 その警備員の方ですけれども、巡回される時間が結構長くあります。この間にいろいろな学校を見せていただきましたけれども、その警備員の方がいない間の防御というのにかなり差ができておりましたので、いないときに主事室の方がかぎをちゃんと持っていて、開けに行ってくださったりと対応をしてくださる場合と、それから割とスルッと入ってしまえる場合と差がありましたので、その部分を今回は特に注意をしていただきたいと思います。

小島委員 保健室も一緒に移転するわけですが、どこの中学の参観だったか、保健室登校という生徒がおりまして、その生徒は、朝から下校時まで保健室にいるという。小学校にはそういう生徒はいないかなと思うのですが、そういう生徒にとってあまり校長室と職員室と保健室だけの建物は行きにくいのですか。

指導室長 小学校にもないわけではないと思いますが、教室ではないところですから、職員室や校長室は別にあまり関係なく行かれますので、この場所にあることについてはきっとお子さんも十分対応できると思います。

小島委員 校長室、職員室、保健室だけのプレハブに行くのは心理的に重くないですか。

指導室長 大丈夫だと思います。子どもたち等とか教室に行きたくないというだけですから。

小島委員 校長先生にはない。

指導室長 大丈夫でしょう。

五味原委員長 よろしゅうございましょうか。

### 3 箱根ニコニコ高原学園ガスヒートポンプ入替え工事に伴う利用休止について



- 4 港区立芝公園多目的運動場の開設について
- 5 港区立郷土資料館の臨時休館について
- 6 生涯学習推進課 8 月事業実績と 9 月の事業予定について
- 7 図書館・郷土資料館の 8 月事業実績と 9 月事業予定について
- 8 指導室 9 月事業予定について

五味原委員長 それでは次に移らせていただきます。

報告事項 3 から 8 までは事務的な報告及び定例的な報告になっておりますので、説明を省略させていただきます。

何かご質問ございましたらどうぞ。

小島委員 指導室長に。幼稚園主任会のこども療育パオの施設見学とありますが、こども療育パオというのはどんなところなのですか。

指導室長 これは例のシティハイツ竹芝の中にあります障害保健福祉センターの中にその療育相談ということを専門とする部門があります。その中で心身に障害のあるお子さんについては個別指導といいますか、専門家の方がその子どもに合った指導をしてくださります。

例えば区立の幼稚園に通っているお子さんが、幼稚園が終わった後の時間をそこで専門家の方と一緒に時間を過ごしながらか、治療的あるいは相談的な対応をするということです。この主任会で行き、5 名ほどのお子さんにそこで個別に対応する様子を見てきたという報告を受けております。

小島委員 この施設自体は別に幼稚園児を対象にしているのではなくて、一般の方々を対象にしているところで、幼稚園児もそれで利用できるというシステムですか。

指導室長 この福祉センターの中に子ども療育というパオという愛称のあるものがあって、子どものためのセンター部門がその中に設置されているということです。

小島委員 はい、わかりました。

五味原委員長 ほかにございますか。よろしゅうございますか。

#### 第 4 協議事項

- 1 港区における生涯教育の施策の方向づけについて

- (1) 学校教育の環境整備について

港区小中学生海外派遣について

五味原委員長 それでは日程第 4、協議事項に移らせていただきます。

港区における生涯学習の施策の方向づけについて、学校教育の環境整備についてのうち、港区立小中学生海外派遣について、指導室長、お願いします。

指導室長 それでは資料ナンバー 11 をご覧ください。

目的といたしましては、港区立の小中学生の児童生徒を海外に派遣することにより、外国の自然、文化、世界に触れさせるなどの直接体験を通して、国際理解及び国際感覚の基礎を培い、コミュニケーション能力を身につけさせることを目的といたします。

今年度から、港区は教育特区として国際科が設置され、そこで学んだことをここでさらに発展、

充実することができるということも含まれております。

平成19年度の派遣予定でございますけれども、小中学生ともオーストラリアを予定しております。小学生はビクトリア州のメルボルン近郊、中学生は西オーストラリア州のパース近郊を予定しております。対象は小学校は6年生、中学校は2年生の生徒です。人員は小中とも35名程度を考えております。時期としては夏季休業中に実施いたします。期間は10日程度とありますが、中学生の方がもう少し長く延びて、10日以上というふうに考えているところでございます。内容としてはホームステイ、現地校の体験入学、体験学習と見学学習というようなことを主に予定しております。

それに先立ちまして、本年度中に現地を視察してこなればプログラムが立てられないということでございますので、10月の中旬から下旬にかけて9日間程度、事務局と担当の校長先生と4名で現地を視察してまいります。内容としては各州の教育省を訪問し、体験入学校やプログラム等の実施内容について詳細に打ち合わせをし、そして実際に行く学校や見学先、体験学習先なども実際に見てまいりたいと思っております。

小中学生が両方ともオーストラリアですので、メルボルンとパース両方を一遍に見てまいりたいと考えているところであります。

以上でございます。

五味原委員長 ただいまの報告につきましてはいかがでございましょうか。

小島委員 港区が教育特区ということで、国際科を設置して英語教育に力を入れている、そういう背景からするとこの企画は大変いい企画だということで、ぜひその目的が達成できるようにきめ細かくやっていただきたいと思います。

港区としては初めてですね。これからいろいろと作業が大変でしょうけれども、その目的達成のために全力を挙げていただきたいと思います。これから具体的な案をつくるということですが、小学生、中学生それぞれ35名ということで、選ばれた生徒が直接行って体験するのはこれは非常にいいことなのですが、それ以外の生徒にも授業によってそういう関心とか、国際的なものに目を向けるとか、ほかの生徒全体に教育効果として波及できるような方法も、そのプロジェクトの中に入れていただいて、全生徒がそれによる刺激を受けられるような制度にしてもらいたいと思います。よろしくお願いします。

指導室長 今のご意見、しっかり受けとめたいと思います。終わりましたら必ず事後報告会ということで、何らかの形でその報告を全体に広げるということも考えております。

一方、今テンプル大学との連携というのをやっております、そこで夏休み中に5日間程度の外国人と密接にかかわるサマープログラムを本年度試行していただきました。万が一、選に漏れたお子さんでサマープログラムを希望するような場合があったら、それに対しても若干補助的なことも含めて予算化できたらいいなと思います。できるだけ多くの子どもたちに英語を実際に、日常生活の中で活用するという、コミュニケーション能力をたくさんつけていきたいということも同時に考えているところでございます。

小島委員 どのくらいの予算を予定しているのですか。

指導室長 実際に1人50万円程度かかるのではないかと思います。そうすると小中学生とも1人50万円で70名、そして引率が各小中5名ずつ程度というふうに考えていますので、80名ですから4,000万円の予算を、一番多くてそのぐらいかなというふうに考えております。

小島委員 選考ですが、今言ったように教育効果が広く全児童・生徒に波及するように。

応募のときに少しオーストラリアや海外のことを自主的に勉強させて、国際的な事象に対する興味がさらに充実発展するよう、何かそのようなことも考えたらいいのではないのでしょうか。

指導室長 今のところまだはっきり決定しておりませんが一応作文を書かせて選考する、それから面接も同時に行って、その海外派遣に対する意欲や、それを今後どういうふうに活用したいかというようなことも含めた面接を考えています。実際にどういう方法でいつやるかということについて、これからさらに詳しく詰めてまいりたいと思います。

今、海外派遣準備委員会というのも設置しておりまして、小中学校の校長先生や事務局の者が集まって、さまざまな方向についてやっていますから、次回あたりから応募についての内容を詰めてまいりたいと思っています。今のご意見も十分参考にしたいと思っています。

小島委員 あと一番大事なものは、こういう場合においては安全に行って安全に帰るというのが非常に大事なことで、安全面については十分検討していただきたいと思います。

五味原委員長 ほかにございますか。

横矢委員 大体同じ意見なのですが、多くの子が自分が行けるかもという可能性を感じられるような形にしてあげてほしいなと思います。以前、世田谷にありましたときは、過去に海外旅行をしたことがないものという条件が、一つつきましたので。それが意外と大家族の、すぐにお金持ちの子が行くことになった。家族が多いので行ったことがなかったのですね。そういうような、不思議なことになっている。条件としてちょっとどうなのだろうと思ったことがあります。できるだけ不公平感がないように、だけれども勉強ができる子が行くのだという雰囲気ではないようにできるといいなと思います。

それには今度の視察をしていただく際に、子どもたちがそれを見てやる気を出せるようなビデオを撮ってきていただくとか、どんな生活が待っているのかというような様子を細かく先生方がみんなにプレゼンするような場を出していただければいいかな。何となくともうらやましい人たちが一部にいるという形になるのは残念だなと思います。

小島委員 勉強できる子が行ってはいけないのですか。

横矢委員 いや、そんなことはないですけれども、勉強できないと行けないというふうになってしまうと、最初から「ああ、おれたちはだめだな」となってしまうので。

小島委員 そういう意味ですか。

横矢委員 それで、例えばスポーツが好きでオーストラリアに行きたいという子どもとかもいますので、いろいろな面から……。

五味原委員長 ラグビー。

小島委員 ラグビーが盛んですね。

横矢委員 ええ。いろいろな面から行けますよというようなイメージ。作文だったら、そういう

面でもできますね。行きたいという気持ちの強い子というのを多くしたいなと思います。視察をぜひ、ばっちり決めてきていただきたいということです。

五味原委員長 ほかにございますか。

教育長 今、各委員からいろいろなご意見をいただいて、そのとおりだなというふうに思います。安全、安心ということであれば、小学校、中学校それぞれが同じオーストラリア行くというのは一体何なのだろうというふうに通常ならば思うわけです。やはりここら辺で違うというもの、きのうで9・11が5年目になったということの報道がありましたけれども、やはりすごくやはり大事なのですね。

そういうこと考えたときに、本当は小学校と中学校は違う国とか地域とかいうところが本当は望ましいという気が私もするのですけれども、やはりそういうことでオーストラリア、比較的治安がいいというようなことで選んだのだらうなと思います。その辺はどうでしょうか。

指導室長 済みません。なぜオーストラリアかということをご報告すべきだなと思いました。

五味原委員長 私も質問しようと思っていたの。

指導室長 まず一つはやはり英語圏であると、コミュニケーション能力を伸ばすということ。それから先ほど申し上げたように治安が良いということが第一にあります。中学校はアメリカはどうかという意見も当初はございましたが、昨年度からのテロのことや何かいろいろありまして、今のところそういう大きなものがないオーストラリアがいいのではないかとということが一つです。

それから時差が少ないということも大きな理由でございます。季節は逆になるのではございますけれども、時差がないこと。季節が逆であるがゆえに、夏に行きますと向こうの学校で、授業を実施している最中です。アメリカに行きますと学校は夏休み中なのですが、オーストラリアの場合は、実際に向こうの学校は学期中でございますので、授業などの学校生活を体験できるというよさがございます。これは何にもかえがたいものだなと思っております。

また、オーストラリアはホームステイなどもかなりシステムの充実しているという情報もございますし、オーストラリア大使館もすぐ近くにあって、何回かオーストラリア大使館には足を運び、あちらの教育省との間のつながりもご尽力いただいているということで、いろいろな意味でオーストラリアが適しているなということを総合的に判断して決めました。

ただし、小学校と中学校が全く同じところというのはいかがなものかということでございますので、中学生の方はパスということで、こちらはまだまだあまり海外派遣で中学生が訪れているという実績があまりないところでございますので、一つそういうところで開拓してきて、充実した派遣ができればというふうに考えてこの二つの都市を選びました。

教育長 そういうことで、きっとすばらしい体験ができるなと思います。

また行けなかったお子さんへの対応で、先ほどサマースクール、何て言ったのですか。

指導室長 サマースクールです。

教育長 サマースクールでいいのですか。そういう試行を今年行ったということで、何人ぐらいこれは参加をしたのでしょうか。

指導室長 今年度は29名というふうに聞いておりますが、港区だけかどうかはちょっとわかり

ません。大変反響が多くて、素晴らしいプログラムということで参加者が随分多かったというふうに聞いております。

教育長 そういうことも含めて、応募をするときに、もしもそういう、必ず行けるということではありませんので、こういうプログラムも用意してあるのだよというようなことも含めて説明してあげるといいと思います。

それから、港区が学校教育で行うのは今回が初めてですが、隣の中央区や千代田区あるいはほかでも随分海外派遣は今ですとやっておりますので、そういう先行してやっている区の状況、そういったものも十分参考にしながら対応していけばいいのかなというふうに思います。

事前指導と事後指導、これは大変重要なわけでありまして、事前にしっかりとやはり学習をしていく、あるいはチームワークを整えるための話し合い活動をしっかりやっていく。そして報告会に向けての事後活動、こういったものにやはりきちんと全て参加できるということも条件に。もう行ったら行ったでもうおしまいですなんていうようなことではなくて、しっかりそういうことも条件に入れて進めていくということは大事なかなというふうに思います。

指導室長 承知いたしました。

五味原委員長 一つ伺いますけれども、気候的にも、治安上も、親日感情もいいということだと、ニュージーランドは初めから候補に入れなかったのですか。何か理由があってオーストラリアということになったのですか。

指導室長 ニュージーランドも考えておりました。考えておりましたが、今回ひとつ同じオーストラリアという国でやってみて、これでまだほかに、これがずっと決定で永久にオーストラリアということではございませんので、またそのニュージーランドなども視野に入れながら実施を検討してまいりたいと思っております。

五味原委員長 はい、わかりました。

それからもう一つ。小学校については6年生ということですね。夏ですね。そうしますと、これはありがたい話ではないのだけれども、港区の私立志向というのは非常に高く、そうしますとかなりのお子さんが6年生の夏休みというのは一番の時期ではないのかなという気がするのですが、特にその後の事後研修その他に関して、この辺は一応検討されたのでしょうか。

指導室長 最初は5年生はどうかというふうに検討してみたのですが、5年生は夏季学園という、夏休み中に学校行事としてニコニコ高原学園で実施していますので、5年生は学校行事とありますが、その夏季学園に重なってしまうので、6年生にしていだけたらと、小学校の校長会の方からご意見をいただき、6年生と決定いたしました。

五味原委員長 わかりました。理解いたしました。

ホームステイというのは一人ずつ家庭に？ 何人かまとまって。

指導室長 今のところは2人ぐらいがどうかと思っているのですが、相手のホームステイ先が何軒見つかるかということにもかかわってまいります。しかし、1人ということはない方がいいかなとは思っております。

教育長 これは小学生では、なおさらそうだろうと思いますけれども、中学生でも通常1人での

ホームステイというのはさせません。これはやはり安全の問題ということもありますので、やはり複数で一つの家庭にお世話になるということはやはり基本にしておいた方がいいだろうというふうに思います。

私は一度ホームステイしたことがあるのですが、大人でも1人はやはり心細かったですね。ですからぜひ複数でホームステイはした方がいい。安全上も。

五味原委員長 しかし小学校6年生というと、言葉の上の問題点というのは何とかなるものですかね。

小島委員 その家庭に男の子だったら男の子、女の子だったら女の子がいれば、言葉はあまりできなくても、コミュニケーションはとれる。

教育長 それも含めて体験です。今まで小学生の特区ということで国際科の中で英語を勉強してきた。その中の通じる部分あるいは通じない部分も含めて、そういったことをホームステイすることによって体験してくると。そして次からのまた学習意欲に結びつけていくということがすごく大事なのだらうというふうに思います。コミュニケーションというのは何も全ての言葉が通じなければできないということでもないと思いますし、またそれを体験することも大事なのだらうなと思います。

五味原委員長 この小中学校とも35名ずつということですが、これは選抜の仕方というか、どのような方法でやろうという考えを持っていられるのですか。

指導室長 先ほど申し上げたように、作文や面接を通して選んでいくと思います。今この人数を出した基準は、もしも各学校でクラスに1人、最低でも学級から1人ずつ出たらこのくらいになるかな。中学校は学級から2人ずつ出ればこのくらいになるかなというような人数でございます。ですからできるだけいろいろな方面から子どもたちを見て、先ほど申し上げたやる気のある、意欲のある子どもたちを選んでいくと。

五味原委員長 いや、私の質問した意味は、それはちょっと矛盾しているのではないか。一方では作文その他で平均的というか、各学校、クラスを考えているよということになると……。

指導室長 済みません、言い方が申しわけございません。各クラス必ず1人というのではなくて、その程度の人数を。

五味原委員長 程度ね。

指導室長 だから全くゼロの学校はないような。

五味原委員長 ないようにね。

指導室長 小さい学校からも必ず行くと。人数がかなり学校によって違いますので、そういう多くの学年がいるクラス、学校でも1人、少ない人数でも1人というのではなく、若干そういう在籍人数に比例したような人数も派遣してあげたいと考えております。

五味原委員長 そうですね。これは公平感を出さないと。

指導室長 できるだけ。そういう意味で35名程度で本年度はやってみようと思っています。

五味原委員長 わかりました。

ほかにはございますでしょうか。

教育長 今の人数のことはここにも程度というふうに書いてあるので、今後いろいろ上限というのはある、いや、あるいは下限というの出てくるのだらうと思うのですけども。何よりもやはり区立の小中学校の子どもたちを海外に派遣するということですから、その中で子どもたちがやはり港区立で学んでいるということに対してやはり誇りを持ってもらいたい。港区だから小学生でこういうことがある、あるいは中学生でもこれだけの人数、多くの人数が行けるということに対して誇りを持ってもらいたいし、港区立の学校の魅力づくりの一つにも私はなるのではないかなというふうに思っております。こういうことをひとつ目指して、子どもたちが一生懸命勉強してくれるようになってくれば、こんなうれしいことはないと思います。

五味原委員長 ほかにありませんでしょうか。

それでは続いて、教育政策担当課長、お願いします。

教育政策担当課長 本日のところは継続協議でお願いいたします。

五味原委員長 それでは学務課長、いかがでしょうか。

学務課長 本日のところは継続協議でお願いいたします。

五味原委員長 それではこの件につきましては、継続協議といたします。

## (2) 社会教育の施策について

五味原委員長 社会教育の施策について、生涯学習推進課長、お願いします。

生涯学習推進課長 本日のところは継続協議でお願いいたします。

五味原委員長 それではこの件につきましても、継続協議といたします。

ほかに何かございますか。特にないでしょうか。

次長 ちょっと先ほど資料配布のみのということの中で、1点ご報告といいますが、ご案内をさせていただきたいものがございました。

資料ナンバー6でございます。

芝公園多目的運動場の開設についてでございます。工期を延長しましてだいぶご心配をおかけいたしましたけれども、この10月15日に記念式典落成式を行うことになりました。来月15日の日曜日でございます。式典とオープン記念大会を予定してございます。今週中には委員の先生方にはご案内が届くかと思いますので、一言お耳に入れさせていただきました。以上です。

小島委員 何時から何時まで出席するのですか。

五味原委員長 10時から11時です。

小島委員 10時から11時。式典に出ればいいのか。

五味原委員長 11時から5時までオープン記念大会がございます。

小島委員 フットサルをやるのですか。

五味原委員長 最終的にはそうしますとプールについては100%来年度からの使用ということになるわけですね。

教育長 ここに落成式の内容、式典ということで 番から 番までなっておりますので、ご挨拶というところに委員長のご挨拶が入るとこういう予定になっております。ひとつよろしくお願いした

いと思います。

今の工事の進捗状況について、生涯学習推進課長、どのようになっているかちょっと委員の皆さんに教えてさしあげて。

生涯学習推進課長 今月の下旬、9月20日ぐらいの竣工予定でございまして、今ほぼ完成に向けて仕上がりつつあるということでございます。

教育長 9月20日ということはもう来週ですね。

生涯学習推進課長 そうですね、来週を予定してございます。

五味原委員長 使用開始はいつからですか。この日から。

生涯学習推進課長 はい。10月15日です。

五味原委員長 これは事前にはやらないのですか。

このグラウンド部門の使用については、登録団体その他何か規制があるのですか。

生涯学習推進課長 こちらがスポーツネットに入っておりますので、そのスポーツネット登録団体チームということでやってございます。

五味原委員長 そうということは、何人かで登録する団体をつくれればいいわけですね、だれでも。

生涯学習推進課長 はい。利用者の登録の要件といたしまして、フットサルは在住団体が5名以上ですね。16歳以上であって、主たる構成員が区内在住者であることというような条件がございます。それから在勤団体ということで、またこれも5名以上、16歳以上であって、区内事業所団体または区内在住者在勤者の構成です。それからもう一つ、少年団体というのがございまして、5名以上全員が区内在住の小中学生であって、区内在住の成人が代表者であるということの要件のもと、この3団体に登録していただくということでやってございます。

五味原委員長 わかりました。

ほかにございますでしょうか。

事務局いかがですか。ほかにございませんか。

次長 特によろしゅうございます。

「閉 会」

五味原委員長 ほかにないようでございますので、これをもちまして、本日の委員会を閉会いたします。

次回は9月26日火曜日午前10時、当委員会室で開会する予定でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(午前11時26分)

会議録署名人

港区教育委員会委員長 五味原 康

港区教育委員会委員 小島 洋祐